口絵1 2015年 クローズアップされた たらた遺跡

1. 壱岐カラカミ遺跡 他に類例のない地上炉(鍛冶炉)は たらたの先駆け くず錫鉄を原料とした製鉄炉か？
2. 西南諸島 喜界島 崩里(くずり)製鉄遺跡 & 城久(ぐすく)遺跡群
   琉球と日本の狭間 奄美大島の東 喜界が島で12世紀の大規模な製鉄・鍛冶遺跡出土
3. 西アジア地中海沿岸の古代銅生産地 銅と鉄 隣り合いながら 溶融しても互いに混じり合わぬ金属
   人工鉄のルーツは 銅製鍊の副産物として生まれてきたとの見方が提案されている
4. ユーラシア大陸を東西に結ぶ 古代鉄 Metal Roadで
   ● 自然通風型のスリランカ古代鉄の製鉄炉《風炉》
   ● 中国成都 漢代の橋脚に使われている巨大インゴット

口絵2 アナトリア高原 カマン・カレホック遺跡の2013年発掘調査で
   ヒッタイト以前世界最古時代の小鉄塊と鉄滓出土

口絵3 たらたの技術が支えた明治日本の産業革命・日本の近代化
   日本近代製鉄発祥の地 釜石 大橋 橋野鉄鉱山 世界産業遺産に登録 2015.7.8.

口絵4 ベールを脱ぎつつあるユーラシア大陸の東西を結ぶメタル ロード・鉄の道

口絵5 8000年を超える長きにわたり、平和で豊かな社会を築いた日本の縄文
   世界が注目する縄文の「他を思いやる 心優しき縄文」
口絵 2015年 クローズアップされた たたら遺跡

1. 壺岐カラキミ遺跡 他に類例のない地上炉(鍛冶炉)は たたらの先駆け くず鉄鉱を原料とした製鉄炉か？
2. 西南諸島 喜界島 崩り(くずり)製鉄遺跡 & 城久(くすく)遺跡群
   琉球と日本の狭間 奄美大島の東 喜界島が島で12世紀の大規模な製鉄・鍛冶遺跡出土
3. 西アジア地中海沿岸の古代銅生産圏 銅と鉄 隣り合いながら 溶融しても互いに混じり合わぬ金属
   人工鉱のルーツは 銅製鋳の副産物として生まれてきたとの見方が提案されている
4. ユーラシア大陸を東西に結ぶ 古代鉄 Metal Roadで
   ● 自然通風型のスリランカ古代鉄の製鉄炉「風炉」
   ● 中国成都 漢代の橋脚に使われている巨大インゴット

九州大学古民具研究会 中国古民具研究会 古民具研究会
2015年 クローズアップ たちら遺跡≪1≫
◆ たちらの先駆け くず銅鉄を原料とした製鉄炉か？
1〜3世紀 壱岐カラカミ遺跡の他に類例のない地上炉（鍛冶炉）
「炉壁・立派な羽口のある地上炉ながら、鉄滓・鍛造剝片も少なく、また出土する鉄が殆ど未完成のくず小鉄
◆ 日本にも製鉄の黎明期 銅鉄くずを原料とした製鉄炉（精錬鍛冶炉）が存在した◆

弥生時代中期（1〜3世紀）の壹岐カラカミ遺跡から出土した製鉄炉（精錬鍛冶炉）は
朝鮮半島南岸の独島地域に豊富にある銅鉄くずを主原料として、
再溶解した製鉄素材を作る製鉄炉ではないか・・・ との説が提案されている
2015.3.1. 大阪中之島 壹岐公開講座で 宮本教授講演より

九州大学宮本一夫教授らは 倭国倭志倭人伝の時代 朝鮮半島交易の中心地として栄えた壹岐からかみ遺跡の鍛冶工房遺構から出土した他に類例のない地上炉について
「炉壁・立派な羽口のある地上炉でありながら、鉄滓・鍛造剝片も少なく、また出土する鉄が殆ど未完成の
くず小鉄片という特異な特徴をもつ地上炉で、朝鮮半島の対岸の勃島周辺から出土する地上炉の特徴がある。
これらのことから、この地上炉は鉄精錬・鉄器加工の鍛冶炉と考えにくく、
「朝鮮半島などから集めた融点の低いくず銅鉄を製鉄原料として鉄素材を作った製鉄炉（鍛冶炉）であろう」という。
西南諸島 喜界島 崩り（くずり）製鉄遺跡 & 城久（ぐすく）遺跡群
琉球と日本の狭間 奄美大島の東となり 喜界が島で12世紀の大規模な製鉄・鍛冶遺跡出土

当時、喜界島は日本本土の南の縁辺。サンゴ礁の島で 製鉄原料の砂鉄は産しない絶海の孤島で なんのためにこんな大規模な製鉄施設を設けたのだろうか?
喜界島は 重要な交易品として鉄素材を琉球に供給していた鉄の生産加工基地か??
この遺跡の製鉄炉は日本から伝播したとみられている
地中海沿岸 西アジアで ヒッタイト滅亡より古い初期鉄器が出土
2015.12.6. 国際シンポ「古代世界の鉄生産—中近東から東アジアまで-」より

鋼と鉄は 隣り合いながら 溶融しても互いに混じり合わぬ金属
「人工鉄のルーツは西アジア 地中沿岸の銅の主要生産地。 銅製鍊の副産物として生まれた」

ヒッタイト王国滅亡前：西アジア出土鉄器分布

ヒッタイト王国滅亡後：西アジア出土鉄器分布
口絵1 2015年 クローズアップ たたら遺跡 《4》

◆ ユーラシア大陸を東西に結ぶ 古代鉄 Metal Roadで

2015.12.6 国際シンポ「古代世界の鉄生産－中近東から東アジアまで－」より

1. 自然通風型のスリランカ 古代鉄の製鉄炉 《 風炉 》
口絵1 2015年 クローズアップ たたら遺跡 《5》

◆ ユーラシア大陸を東西に結ぶ 古代鉄 Metal Roadで

2015.12.6 国際シンポ「古代世界の鉄生産—中近東から東アジアまで—」より

2. 中国成都 漢代の橋脚に使われている巨大インゴット

漢代 成都平原(四川省)にある高さ約1.1m 直径55cm 重さ1.4t 巨大な鉄の橋脚
揚子江流域 四川省が漢代重要な鉄の生産地であることを示す
口絵-2 アナトリア高原 カマン・カレホユック遺跡の2013年発掘調査で ヒッタイト以前世界最古級の小鉄塊と鉄滓出土

愛媛大学アジア古代鉄研究センター関係各国研究連携 「鉄の起源・ユーラシア大陸の東西を結ぶ古代メタルロードの探求」

愛媛大学アジア古代鉄文化研究センター第18回アジア歴史講演会 「鉄の起源の探求」成果報告 2015.2.14
「青銅器時代の西アジア 鉄の起源と展開 金属器時代の黎明－価値と技術－」より
口絵-3  「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の世界産業遺産登録 2015.7.8.
たたらの技術が支えた明治日本の産業革命・日本近代化
日本近代製鉄発祥の地 釜石 大橋・橋野鉄鉱山 世界産業遺産に登録

◆ 近代製鉄発祥の洋式高炉建設地「釜石」橋野・大橋を訪ねる。2014.6.7.
http://www.infokkna.com/ironroad/2014htm/iron10/1407kamaishi00.htm
口絵4 ベールを脱ぎつつあるユーラシア大陸の東西を結ぶメタルロード・鉄の道

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター村上裕通教授らが進めている関係各国連携プロジェクト
「鉄の起源・ユーラシア大陸の東西を結ぶ古代メタルロードの探求」

愛媛大東アジア古代鉄文化研究センター 第8回国際学術シンポジウム
「古代世界の鉄生産－中近東から東アジアまで－」 2015.12.5. 大阪
愛媛大学東アジア古代鉄研究センター村上浩通教授らが進めると関連各国連携プロジェクト「鉄の起源・ユーラシア大陸の東西を結ぶ古代メタルロードの探求」

遊牧民の鉄の道・Metal Road「草原の道」の南にはオアシスをつなぐ通商路「シルクロード」があり、また、さらに南にはインド・中国への鉄の道・Metal road「南西シルクロード」も存在する

「鉄の起源並びに時代を超えた製鉄技術伝播の道メタルロード解明の連携プロジェクト」成果例

◆ 人口鉄を初めて作られたとされてきたヒッタイト以前の最古の鉄を西アジア、アナトリア高原カマカレホユック遺跡で発掘

ヒッタイトが人工鉄を初めて作ったとの定説を覆す

◆ 鉄の起源に迫る鋼生産地「ハレシナ」「ギエブス」での滅絶と密接な関係を示す多数の出現期鉄器の存在の確認と、同時期のハレシナ製鉄遺跡出土の鉄器・小鉄塊の調査

◆ ヒッタイト滅亡後、ユーラシア大陸伝播の出発点、古代鉄東進の鍵を握るジョージア周辺の製鉄遺跡群調査

◆ ロシア・西シベリア・モンゴル・中国の製鉄遺跡調査、中央アジア草原の道とシベリア

遊牧民は製鉄を含め生産基地を持たないとする説を覆し、遊牧民は製鉄を行っている

◆ 四川成都高原の蜀・漢代の製鉄遺跡の調査等々

黄河・中原が製鉄の根拠地とされてきた中国大陸、蜀・漢代成都平原を中心とする製鉄遺跡群

◆ インド・スリランカ・東南アジア伝播の道も、スリランカの珍しい自然生風巨大火災型炉を考えさせる風炉

この連携プロジェクトにより、鉄の起源〜鉄のユーラシア大陸東進の道が今より明らかされつつあり、毎年一度、その年の成果報告を中心に鉄の起源〜鉄のユーラシア大陸東進の道(Metal Road)の話が聞けるうれしいシンポジウムが開催されてきた。今回は新たにウラル・モンゴル・西シベリアの古代製鉄遺跡そしてインド・スリランカ、東南アジアの古代製鉄なども紹介され、ユーラシア大陸鉄東進のメタルロードが今より明らかされつつあると強く感じました。

また、センセーショナルに伝えられたハレシナでの製鉄現場の鉄・小鉄塊が鉄の起源とのイメージも強くなくなってきたと、来年の成果までに益々期待が築かれています。
口絵5 1万年を超える長きにわたり、平和で豊かな社会を築いた日本の縄文(1) 世界にも類例のない平和な永続社会 その原点には何があるのか… 世界が注目する縄文の「他を思いやる 心優しき縄文」

ほかの動物に狩猟・採取の生活をみると
「乳離れするまでは 面倒を見るにしろ
狩猟・採取の移動の中で 群れについてゆけなくなると置いてきぼり」
それが狩猟・採取の生活の厳しさである。
そんな縄文狩猟・採取の時代に 幼くして小児麻痺にかかった少女が 成年期を経て一生 多くの人たちに見守られ てその村で暮らしっていた。
世界が注目する縄文の「他を思いやる 心優しき縄文」
北東北・北海道の縄文遺跡をユネスコ世界遺産に

◆ 競争社会から成熟社会へ移行する日本に必要なのは「縄文かえり・心の優しさ」では・・・
朝日新聞天声人語にこんな記事が・・・

ヒューマンを特徴づける「利他的精神」がこんなところにも

2014.5.6. 朝日新聞「天声人語」より

人間が人間とする由縁は「他を思いやる心」を持っていること。 現生人類が現代にまで、幾多の苦難を乗り越え、文明を発展させて 今まで生き延びることが出来たのは、この「他を思いやる心・利他的精神」を持ち合っていたからだという。
そんな「心やさしき」縄文人は 世界3大文明に先駆け、縄文文化を花開かせ、日本人の心のふるさととなった。
激しい競争社会が展開させる現在 今一度 この人類史の現実をみつめ直す必要がある。
ややもすれば 自己責任を強める現代社会への警惕 こんな身近な例からも社会を考えるヒントがある。

2014.5.6. from Kobe Mutsu Nakanishi

◆ 心優しき 縄文人 縄文帰りおすすめ
◆ 縄文の心を映すストーンサークルを訪ねる